

津島市都市計画マスタープラン等策定委員会（第4回）議事録

1. 日時 : 令和3年2月2日（火）午前9時30分～午前11時30分
2. 場所 : WEB会議
3. 出席委員 : 9名、オブザーバー3名
4. 事務局 : 津田副市長、早川建設産業部長、山本参事
角田課長、松尾補佐、志知主査、加藤技師

5. 議事内容 :

- (1) 前回議事録を踏まえた地域別構想（案）の修正について
- (2) 都市づくりの目標について
- (3) 立地適正化計画（誘導施設の検討）について

6. 議事概要 :

- (1) 前回議事録を踏まえた地域別構想（案）の修正について

質疑応答なし

- (2) 都市づくりの目標について

事務局 : 都市づくりの目標について、「つしまし」の語呂合わせで4つの目標を出しているが、「し」が対応している「至宝の歴史資源」と「ま」が対応している「眩しい」については、他に何かいいアイデアがあればいただきたい。

委員 : 資料2のP3に載っている指標について3点の確認事項がある。

- ・項目「人口」の「総人口に占める若年子育て層の総数と割合」の中で、「若年子育て層」は何を指しているか。
- ・項目「住環境」に「人口一人当たり公園整備面積」という指標があるが、今後まちなかで何かを整備していく予定があるか。
- ・項目「観光」の「主要観光レクリエーション利用者数」は20万人増との目標を設定しているが、これまで観光についてどういう状況で推移しており、これからはどういう方針で整理していくかを教えていただきたい。

事務局 : 「若年子育て層」は20歳から45歳くらいまでの人口を対象にしたいと考えている。過去の委員会でお配りした「都市構造分析」では、津島市における社会減の年齢構成について表を載せており、男女別の社会減は、津島市の出生率に影響してくるため、できるだけ子どもを産む世代を津島市に残し、出生率が低いという現状を改善していきたいと考えている。

- ・津島市では長期未着手の都市公園が多く存在している。今後、そういった公園については歩いて行ける生活圏に密着するように再配置を踏まえて考えていきたい。
- ・今後の観光事業に関しては、ユネスコ無形文化遺産に登録された天王祭を始めとする4大祭りがある。しかし、年間を通じての観光という観点では、祭りやイベント以外の観光資源の価値、魅力を上げていきたいと考えている。名古屋鉄道株式会社と連携して行っているキャンペーンの「つしまちあるき」はいい反応を得たため、このようなキャンペーンを継続的に行い、地道に伸ばしていきたいと考えている。

委員 : ・都市づくりの目標について、「眩しい」という言い方が分かりにくいのと歴史資源に「至宝」という形容詞をつけてよいか、といったことから、場合によって「つしまし」に語呂合わせをしなくてもよいと思う。

- ・都市づくりの目標の右側にある4つの宣言はどのような意味なのか。
- ・目標①「つながり、楽しみ、共に暮らし、未来へつなぐ」からみると、「交流」のイメージがあるが、そこに「快適」の表現が適切なのか。「交流・快適都市」にしてはどうか。
- ・目標②「至宝の歴史資源を活かし、未来へつなぐ」と書いているが、歴史資源の中にも緑の部分もあるし、これから環境問題が注目されるといったことから、「歴史・環境」に関する目標を含めてはどうか。
- ・目標④で最も重要なのは「共助・自助」だと思う。「協働しながら安心して暮らしていく」都市を作るという意味で、「協働・安心都市」にしてはどうか。「安全」は重要な点ではあるが、津島市の場合ではどうしても浸水するため「安全」とは言い切れない。だが、きちんと避難活動や避難場所が確保されることによって、「安心して暮らせる」まちにはできると思う。

事務局 : ・「眩しい」は農業と産業を対象としており、農業では実りが光っていることと、産業では鉄鋼製品や製造された新品がぴかっとしており、眩しいという意味で書いた。「至宝の歴史」については主に語呂合わせの理由があって、委員のご意見を受け、また表現について検討させていただく。

- ・「宣言」の意味については、当市は都市づくりのスローガンとして使わせていただいている。
- ・「協働」が重要であることから、他の目標を含め、表現方法については再度検討させていただく。

委員 : ・「眩しい」に関しては、作った人からみると「眩しい」と分かるが、よその人からみるとピンと来ないので、分かりにくいと思う。

- ・「宣言」という言葉を使うと、何か具体的にやるというイメージがある。都市計画マスタープランは目標を掲げるもので、「〇〇都市を目指す」まで書くとよいと思う。

委員 : 人口減少、少子高齢化の社会背景から多くの人に市内に引っ越してもらい、住んでもらうという目標は4つの「都市づくりの目標」とはどう対応しているのか。

事務局 : 人口減少、少子高齢化、出生率の低下に関しては目標①に含まれると考えている。資料2のP3の評価指標では、その対応を示している。

委員 : 今の話では、目標①「つながり、楽しみ、共に暮らし、未来へつなぐ」は人口減少などと直接な関係がないと思われる。

事務局 : ご意見を踏まえ、言葉の表現に関してはまた検討させていただく。

委員 : 資料2のP3の評価指標表では、「人口減少のうち社会減」と書いているが、「社会増減」と書いたほうがよいと思う。しかし、目標としては、「0人」ではなく「+」にしてほしいと思う。

委員 : 都市計画マスタープランと総合計画とは整合性を取れているか。

事務局 : 都市計画マスタープランの策定は総合計画との整合性を取りつつ進めている。

委員 : 資料2のP1では、「都市づくりの目標」という言葉は2回出ており、分かりにくいいため、真ん中部分の「都市づくりの目標」を「都市づくりの理念」や「都市づくりの将来像」など、他の言葉に書き換えたほうがよいかもしれない。

委員 : 資料2のP3の評価指標では、「災害に対する家庭内の備えが出来ている割合」という評価指標はどのように把握するか。

事務局 : この項目は総合計画を策定する際に、実施した市民意識調査に入っている内容である。市民意識調査の市民が「災害に対する家庭内の備えが出来ている」と思う割合である。

委員 : 今の評価指標の書き方からみると、「備えが出来ている」という指標があるようにみえるが、市民意識調査からの指標であれば、他の市民意識調査の結果からの評価指標と

整合を取り、「〇〇市民の割合」という書き方に統一したほうが分かりやすいと思う。

委員 : 「共助」に関する評価指標はない。例えば、地区防災計画をどのくらい作っているかという指標を入れてはどうか。

事務局 : 「共助」に関する指標を検討させていただき、追加させていただく。

委員 : 委員と同様な内容となるが、資料2のP1では、「都市づくりの目標」が2回出るのは混乱しやすいため、1つは「都市づくりの方針」などに書き換えるとよいと思う。
また、都市づくりの目標は「つしまし」に語呂合わせをすると、考えが縛られてしまうことがあり、「暮らし」「観光」「産業」「防災」の分野の並び順を考慮しつつ「つしまし」に縛られず都市づくりの目標を考えたらどうか。
都市づくりの目標の右側にある「〇〇都市宣言」には違和感があり、目標の内容とつなげて、「未来へつなぐ都市」にしてはどうか。

事務局 : 検討させていただく。

委員 : 津島市は若い人に転入してもらい、社会増に転じたいという思いがあると分かった。それなら、都市計画としては、子育て環境を充実させること、若い人が買える宅地供給を増やすこと、生活利便性を向上させることは必要があると思う。全体として、そういった点について整合を取れているかを確認していただきたい。

資料2のP2の「PDCAサイクルの概念図」は抽象的すぎると思う。具体的に何年に中間見直し、何年に目標指標を確認するかを書いてはどうか。

委員 : 「都市づくりの目標」で若い人に転入してもらいたいと書かれているが、若い人に来てもらうために、津島市の良さをわかってもらうように若い人向けのマーケティングを進める必要があると思うが、そのような内容はどこかで検討するとよいと思う。

事務局 : 人々のライフステージから価値観が形成され、その価値観によってプライオリティがあると思う。しかし、そういったものをいかに魅力的に発信するかは大事である。今後、立地適正化計画などの別計画で発信していきたいと考えている。

委員 : 住民とともに活動しているうちに、若い人が来る。津島市でも市民とともにまちづくりをすることで若い人が来るかもしれない。

委員 : トrendを取りつつ、将来の話を描いていくと、若い人を吸引できるのではないかと。

委員 : 子育て世帯を取り込む中で、病児、病後児の保育についても検討していただきたい。

委員 : 施策の行い方が重要だと思う。市の中で様々な部署がそれぞれ違う方向を向いて事業を行ってしまうケースがあるため、横の連携を取り、統一的なことを行って頂きたい。

委員 : 子育て世帯への取組は重要だと思う。先日このコロナ禍の中で立派な成人式を開催して頂き、子供も喜んでいた。ちょっとしたことの積み重ねが子育て世代の転入を促進することにつながると思う。

ワザバー : 市民が都市計画マスタープランについてどのくらい理解しているかがまちづくりに重要である。市民にまちづくりに参加していただくためには、いかに各計画を発信するかを考える必要がある。

委員 : 至宝の歴史という切り口は重要だと思う。若い人にカップラーメンと手打ちそばどっちがいいかと聞くと、ほとんどがカップラーメンを選ぶ。しかし、手打ちそばにはその製造方法や、健康面にも良いことがわかると手打ちそばを選ぶ人が出てくる。市民が津島の歴史を宝だと思い、それを売り出していくことが必要だと思う。

委員 : 委員の意見のとおり、学生も同様にカップラーメンと手打ちそばどちらが食べたいかと問うのではなく、手打ちそばを打ちに行こうと誘うと来てくれる。そこから、その魅力が伝わり、手打ちそばを選ぶようになってくる。PRの仕方が重要である。

(3) 立地適正化計画（誘導施設の検討）について

- 委員 : 子育て支援施設について、幼稚園、保育園、認定こども園が誘導施設に設定されていることから、都市機能誘導区域に低未利用地があれば、それらを利用し若い人に住んでもらい、そして区域内の子育て支援施設を利用することが考えられるが、都市機能誘導区域内の土地が高く買えないとなると、人々は郊外、又は区域の周辺に土地を求めることになる。その場合では、都市機能誘導区域外に住む人たちの家の近くで幼稚園、保育園、認定こども園の利用をどう確保するか。
- 事務局 : 津島市の魅力を高めていくため、駅周辺の再整備を考えている。その中で、津島市に在住、名古屋市で働く共働き世帯の新しいライフスタイルを見通し、駅近くに子育ての一時預かり所への需要が高まると考えられる。そこで、子育ての一時預かり所を想定し誘導施設と設定した。
- 委員 : 駅近くにそういった施設があるとよいと思うが、やはり家の近くにも幼稚園、保育園などが必要だと思う。また、子育て世帯には、車が中心となる生活が想定される。車による移動を考えると、駅前より家の近くに子どもを預けて仕事に行くパターンもある。誘導施設に設定されると届出の課題が出てくるが、それについてどう考えているか。
- 事務局 : 都市構造分析では、現状で子育て支援施設の徒歩圏による人口カバー率は60～70%であることから、幼稚園、保育園、認定こども園を誘導施設に設定した。
- 委員 : すなわち、他の地域にはすでに足りているから新たに立地させなくてもよいという理解でよいか。
- 事務局 : その通りである。また、子育て支援課で策定された中長期化計画があり、その計画においては子育て支援施設は量的に充足しているが、今後子ども1人当たりをみる際に、子どもの数として、担い手都市の充実が必要だとまとめられている。
- 委員 : 津島市はこれから若い人、子育て世帯を増やしたいといいつつも、現状の子育て支援施設が足りているから新たに立地させるような施策を作らないといけないと思っている。そこで、これから施設を全部駅周辺に集中させてよいかは懸念される。
- 委員 : 委員と同じ懸念を持っている。また、駅周辺の一時預かり所だと保育園しか該当しないと思う。通勤時での利用を想定すると、短時間しか利用できず、それで幼稚園への需要もあると思うので、やはり全市で子どもたちに通わせられるように立地させる方が妥当だと思う。
- 委員 : 医療施設について、誘導施設は市民病院に設定されており、診療所はおそらく数が足りているから設定していないのだろうと思う。しかし、1次医療、2次医療という考え方からみると、専門医と一般医を分けていない診療所の中で、1次医療として利用できる診療所はどのくらいあるかは分からない。そこで、1次医療や2次医療として利用できる施設という考え方から検討していただきたい。
- 事務局 : 都市機能の分類の中で、診療所の5科目をさらに細かく分けつつ、都市機能誘導施設の検討をさせていただく。また、1次医療や2次医療に関しても、市民病院や地域連携室と意見を交わしつつ診療所のあり方について整理させていただく。
- 委員 : 誘導施設を検討される際に、各施設の受け皿となる地域はどこにあるかについても含めて検討していただきたい。
- 事務局 : インセンティブに関しては今後紹介させていただく。また、事業体への説明や啓発はすぐにでもできるもので、これから病院関係の部署と意見を交わしつつ立地適正化計画を検討していく。
- ワザンバー : 最近の店舗面積1,000㎡を超えるドラッグストアなども増えているので、大型商業施設の定義についても一度検討していただきたい。
- 事務局 : 最近の店舗の状況を踏まえながら、大型商業施設の定義について整理させていただく。

- 委員 : 医療施設や子育て支援施設など、人々の身近に必要な施設は都市の中心に集中させるのは良いかと思いつつも、都市の中心にそういった施設を誘致したいという思いもある。そこで、もし可能であれば、その他施設の部分で、そういった身近な機能を含む複合的な施設を誘導してはどうか。
- 事務局 : ご意見を踏まえ、また情報を収集して資料を整理させていただく。
- 委員 : その他施設でも国からの補助金はもらえるか。
- 事務局 : 国からの補助金には該当するはずである。詳細については誘導施策にて整理させていただく。
- 委員 : それなら、複合施設の設定は津島らしさにはなると思う。その他に、規模で分けて誘導施設を設定する考え方もある。

以上